

臨床実習

歯周治療学

《担当者名》歯科クリニック

教授 / 長澤 敏行 nagasawa@ 准教授 / 門 貴司 kado@ 講師 / 加藤 幸紀 satsuki@
 助教 / 清水 伸太郎 sshimizu@ 助教 / 杉山 のどか nsugiyama@ 特任教授 / 古市 保志 furuichi@
 大学病院
 講師 / 森 真理 marichan@ 助教 / 尾立 達治 odachi@ 助教 / 小西 ゆみ子 yumikom@

【概要】

歯周疾患の治療に必要となる、歯周組織検査と歯周基本治療内容を理解し、歯周組織検査と歯周基本治療が実施できる知識、技能及び態度を修得する。

【学修目標】

歯周組織検査（ブラーク染め出し、歯の動揺度検査、歯周ポケット検査）を実施する。
 歯周疾患を診断する。
 治療計画を立案する。
 適切なブラークコントロール指導を実施する。
 歯周疾患の簡単な処置（スケーリング・ルートプレーニング）を実施する。
 暫間固定を実施する。
 歯周治療における生活習慣に関して適切に指導する。
 禁煙指導・支援による歯周疾患の予防を実施する。
 歯周外科手術の介助を適切に実施する。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-----|------------------------|---|--|
| | 総合 登院実習説明 各種機材説明 | 臨床実習の進め方や注意事項、歯科クリニック外来における見学・介助・自験の方法について説明を受け、これらを理解するとともに、実習に必要な知識の整理と実習器具・器材の使用法を理解する。 | 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子 |
| | 相互実習 | 下記の歯周治療の内容についての技能、態度を相互実習により学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯肉縁上スケーリング（超音波スケーラー） ・ PMTC (F-7-3- ~) | 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子 |
| | (診療参加型臨床実習) | 配当された患者の検査、治療計画の立案、治療、予後の観察までの一連の流れを習得する。外来見学、介助及び一部診療を行い、下記の口腔内検査法及び歯周治療の内容についての技能、態度を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯肉炎指数 ・ 歯周プローピング深さの測定 ・ 動揺度 ・ ブラークチャート ・ 診査（EPP, GI, PLI, 動揺度, 模型） ・ ブラッシング指導 ・ 歯肉縁上スケーリング ・ スケーリング・ルートプレーニング ・ 歯周外科 ・ その他 (F-7-3), E-3-3)-(3) | 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子 |
| 上記以 | 臨床推論 | 歯周治療に関する臨床推論ならびに臨床フィード | 長澤 敏行 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-------------|---|---|
| 外 | 臨床フィードバック講義 | バック講義を行い、歯周外科治療などの経験が望まれる重要な課題を補完するとともに臨床推論能力を高める。 (G-1-1) 、G-2)) | 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 杉山 のどか 古市 保志 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

注1：未修了の場合、総合学力試験の受験資格が与えられない。

注2：総合学力試験として当分野領域の多肢選択式問題を出題し、正答率60%以上を合格とする（出題数は別途提示）。

【教科書】

「第3版臨床歯周病学」医歯薬出版

「歯周治療学実習書」北海道医療大学歯学部歯周歯内治療学分野編

【参考書】

講義時配布資料

「歯周治療のガイドライン 2022」特定非営利活動法人 日本歯周病学会編

【学修の準備】

シミュレーション実習時には、教科書・講義資料と歯周治療学実習書を復習し、実習内容を理解したうえで行う（30分）

診療参加型臨床実習時には、事前に担当教員と打ち合わせし、治療内容について十分に理解する（60分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

長澤 敏行（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、清水 伸太郎（歯科医師）、杉山 のどか（歯科医師）、古市 保志（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、尾立 達治（歯科医師）、小西 ゆみ子（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床実習において、歯周疾患の予防と治療を通じて口腔機能の回復の意義と全身の健康に寄与する科目であることを理解する。学術的根拠を背景とした診療の実際について学ぶ機会である実習において、臨床実務経験のある教員を配置することで、歯周治療学に関する優れた教育成果をあげることが期待できる教育内容である。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している